

今、我が国のセキュリティ産業に 求められる変革とは何か

経済産業省
サイバーセキュリティ・情報化審議官
工学博士

伊東 寛

自己紹介



【主な履歴／経歴】

- 1978年3月 慶応義塾大学工学部電気工学科卒
- 1980年3月 慶応義塾大学大学院修士課程修了
- 1980年4月 陸上自衛隊 入隊
- 2007年3月 退職(1等陸佐)
- 2007年4月 (株)シマンテック総合研究所 入社
- 2010年6月 株式会社ラック 入社
特別研究員
- 2011年4月 執行役員 サイバーセキュリティ研究所長
- 2013年4月 常務理事 ナショナルセキュリティ研究所長
- 2016年5月 経済産業省 サイバーセキュリティ審議官

<趣味>

戦術、歴史、SF

<特技・資格>

工学博士、陸上自衛隊特級射手、大型自動車免許

<論文等>

サイバー攻撃及び安全保障に関する論文多数

<著書等>

- ・「第5の戦場 サイバー戦の脅威」 祥伝社
- ・「究極の危機管理」 安全保障危機管理学会
(共著)
- ・「サイバー・インテリジェンス」 祥伝社
- ・「サイバー犯罪から身を守る30の知恵」 並木書房
(共著)
- ・「サイバー戦争論」 原書房

等



本講演の内容は、公開情報に基づき、
発表者が個人的に分析した成果によるも
のです。政府関係機関、その他民間会
社等の見解を代表するものではありません。
ん。

論点1:我が国の情報セキュリティ産業の弱点と強みについて

<弱み>

そもそも、現在の日本人に情報とかセキュリティとかいうものに関する意識が欠落。曰く、水と安全はタダ
情報セキュリティ産業も育ちにくい環境
とりあえず1億人の市場があるので、海外でまで戦おうとしないで済む甘え
理系軽視による人材の層の薄さ
匠の技はあってもイノベーターは育たない文化 ノーチャンレンジ

<強み>

日本人の真面目さ
案外、創造性も高い→好奇心、技能、こだわりは失われていない(例;アニメ)

おそらく日本製品は日本製というだけで「売り」があると思う

論点2:最近のIOT・ビッグデータ・AI時代を踏まえて、 その活路は何処にあるのか

周回遅れの技術で挑戦するのは得策ではない
勝ち目を何処に見出し、どう筋道をつけるかがポイント

真面目な製品を用意
ライフサイクルセキュリティとでもいうか、長期的な視野に立つ製品を考える

そこで、AI及びロボットには、これまで以上に力を入れるべき(勝ち目)
少子化・高齢化していく日本社会は、社会構造上、世界の最先端である
否応なく、人工知能が必要になる

ソフトウェアの時代こそ、我らの時代だと意識を変えよう

論点3:国内のみの人材育成は効果があるのか、間に合うのか

どういう人材を育てるか？

サイバー兵士とサイバー軍曹育成から、サイバー将校の育成にも目を
正規軍と特殊部隊

知識ではなく、知恵をつける教育が重要である

進んでアジアの優秀な若者を招くべし
しかし、その教育は「日本語」で行う

軍隊では、間に合わせる。あるもので戦う。

論点4:官民学の責任とは(国に期待する施策とは何か)

<官>

官でないとないとできないことに注力

例えば、大きな資金が必要なもの

外国政府(機関)との枠組み作り

企業をまたがり社会全体に影響を及ぼす分野へ→安全保障分野

<民>

しがらみのない発想と実行力、そしてスピードを期待

スタートアップ企業の応援なども民民ベースで(目利きの必要性と可能性)

<学>

夢のある教育を

また失敗を恐れない若者を育成してほしい

まとめに代えて

欧米各国を見て思うこと

それぞれの国情にあった戦略(人材育成、技術開発など)がある

我が国の弱点と強み

意思決定の遅さ。一方で約束は守るし、ちゃんとしたものを作る真面目さがある

経産省として

人材育成

サイバーセキュリティ産業の育成

産業の保護

アニメにみる日本人の創造性やこだわり

私は、セキュリティ産業への未来をそこに見る

ネットを介することで、ガラパゴスを打ち破れる
のではないか